

とうほく街道会議

第1回 交流会秋田大会



『日本奥地紀行』のイベントマークの報告も行われた

街道をキーワードに地域づくりを考える「とうほく街道会議」の第1回交流会秋田大会が11月5、6日に秋田市の秋田温泉「さとみ」で開かれ、各地の市民グループや行政、国や県などからおよそ270人が参加した。

1日目は菅江真澄に強い関心を持つ作曲家の間宮芳生さんが「菅江真澄が書きしるした みちのく・いてはの原風景」と題して、真澄の文に節をつけた曲を流しながら講演した。続いて各地からの活動報告があり、そのあと3会場にわかれて意見交換会が行われた。

2日目は男鹿半島における真澄の足跡を訪ねる街道探訪会が催された。ここでは、意見交換会の模様を中心に紹介する。

●平成17年11月5日
●秋田温泉「さとみ」



「菅江真澄が書きしるした みちのく・いてはの原風景」と題した記念講演をする作曲家の間宮芳生さん



川原 俊太郎 (秋田県)
国土交通省秋田河川国道事務所長

真澄の足跡を活用し旅行者の知的好奇心を満たす観光振興を図ることで、地域活性化を支援する取り組みと今後の展開に向けた抱負・課題等について報告。

「菅江真澄の足跡を訪ねて」
川原 俊太郎



渡部 雅俊 (栃木県)
野岩鉄道(株)常務取締役総務部長

バードの没後100周年をきっかけに、昨年県境を越えて行ったイベントで得られた、関係自治体や各種団体との広域的な連携や、地域振興と観光資源の再発見等の効果について報告。

「イザベラ・バード『日本奥地紀行』再現ウォーク大会を開催して」
渡部 雅俊



古賀 方子 (福岡県)
全国街道交流会議専務理事

街道の連携についての意義と、アメリカで生まれた観光振興プログラム「シーニックバイウェイ」の北海道での試行状況及び全国展開に関する話題を紹介。

「各地からの事例報告」
街道連携からシーニックバイウェイへ」
古賀 方子

間宮芳生
間宮氏が子供の頃から慣れ親しんだ父親や恩師のアクセントと、イタコの口寄せのリズムやアクセントが酷似していることから、真澄の時代も今より少し前の時代も同じようなリズムで話す文化が存在していたと意見を展開。さらに「菅江本奥じゃうるり」という真澄の文に間宮氏が節をつけた曲から、当時の民衆の生活感や思考についても考察。

石塚 友寛 旅人たちは街道を歩いて、なぜみちのくをめざし、みちのくの地で何を感じたのだろうか、ということについてお話しください。

田中 裕子 山形は芭蕉が一番長く滞在した所です。また、イザベラ・バードは山形を東洋の理想郷だと褒め称えました。山形を通り過ぎただけの菅江真澄でしたが、彼の魅力を知るにつけ、会ってみたいとなりました。真澄は好奇心旺盛な人ですが、旅のモチベーションは好奇心だと私は思っています。

高橋 茂信 私が真澄と関わったきっかけは、真澄の著書に私が生まれた旧山内村のことや、私が奉仕している神社のこと、さらに私の家の系図も細かく書いてくれていたためです。私も田中さんと同

●パネリスト



田中 裕子 (山形県)
フリーアナウンサー

●パネリスト



高橋 茂信 (秋田県)
菅江真澄研究会理事

●コーディネーター



石塚 友寛 (秋田県)
東日本旅客鉄道(株)秋田支社営業部長

●パネリスト



島津 憲一 (山形県)
三信地域連携協議会事務局長

テーマ
「街道と旅人」

第1会場

様、真澄に会ってみたいと思っ

島津 憲一 私の本職は薬剤師です。真澄は本草学の本道だった尾張本草学を学んだ薬師ですが、このことを知ってから非常に真澄に親近感を覚えました。また大変な博物学者であり、文学と医学の素養もある魅力的な人物ですね。

みちのくを歩くというのは、未知なるものへの憧れだったと思います。吉田松陰や、バード、真澄をはじめとした先人と同じ所を歩くと、街道の魅力というのはすぐく広がるのではないのでしょうか。石塚 先人たちが学んだものをどう活かしたら、みちのくを元気にすることができ

るか、についてお話してください。

田中 真澄は謎の多い人物ですが、皆さんにどうすれば真澄に興味を持たせ、研究させることができるか、と考えてしまいます。そんなところから街づくりとか、元気になるとかに、つなげていけるのではないのでしょうか。

高橋 実は今年の9月に、私たちの旧山内村で第18回全国菅江真澄研究会を開催しました。そのとき村の人たちに、自分たちが生活している所がどういう所なのかを知ってもらいたくて、ガイドの養成をしたり、中学生に総合学習として真澄のことを調べて発表してもらったりしました。旅人が何かを書き残してくれている。それらを我々は有効に活用しなければなりません。

島津 ただ景色だけを見る旅はつまらないもので、地元の人との交流がないと旅の魅力は生まれません。私たちの三宿地域連携協議会の三宿は、山形・宮城のどん詰まりの地域ですが、県境や行政区分を取り払うと、背中合わせに互いの地域が

存在しています。

会では郷土料理、旧峠道の探訪会などを行い交流をしています。取り組みを進めて自信を持ったのは「食」です。郷土料理は人と人をつなげてくれます。これからの交流に「食」は欠かせないと気づきました。

田中 40歳歳の真澄が、以後死ぬまでの半生を秋田に置いたのはなぜだろうか、これを秋田の人に探って欲しいと思います。真澄をひきつけたものを探り当てる、そこにこれからの秋田や東北が元気になるヒントがあると思っています。

高橋 日ごろなんでもないと思っているものが、よその人から見れば価値がある、ということを知って欲しい、これからの地域社会をつくるのに活用してゆくべきだと思っています。

島津 私たちの高島町には都会から移住してきた人が70人くらいいます。都会から来る人はほとんどがエリートですが、地元高島の人間はその人たちに負けないパワーを持っています。地元の力と外から来る新鮮な力が合さり新しい何かを生んでいると思っています。

田中 ドイツの建築家ブルーノ・タウトは昭和10、11年に秋田を訪れ、人々や自然の美しさを賞賛しています。地元の人が気づかない魅力を、外から来た人間は見つけます。うちには何にも無いよと絶対言っ

てはいけません。地域づくりに自信を持つため、外の人間が褒めた言葉などを掘り返すべきです。石塚 皆さんのお話を聞いて思ったのは、地元の素晴らしさを見つけていることが重要だということですね。先人の旅人たちは遥か昔にそれを見つけていた、ということ。今日は確認いたしました。

第2会場

テーマ
「街道と交流」

コーディネーター



折田 仁典 (秋田県)
独立行政法人国立秋田工業高等専門学校教授

パネリスト



田中 寿明 (青森県)
上十三地域広域連携芸術文化観光部会代表



佐々木美知子 (秋田県)
道の駅「みねはま」駅長

パネリスト



渋谷 浩一 (福島県)
ふくしまけん街道交流会事務局長



堀川 邦雄 (宮城県)
みちのく歴史街道研究会会長の会長

折田 仁典 街道をキーワードに地域の垣根を越えて活動されているみなさんの事例をお話してください。

堀川 邦雄 仙台市にある「道路資料館・みちあむ」主催の街道探訪などをしていて、みちあむの探訪会は人気があり、定員オーバーとなることもたびたびです。応募にもれて欲求不満になるため、3年前からはみちあむの探訪会とともに、会独自の歴史探訪会も年に2回行っています。

田中 寿明 私が活動する上十三地域は、上北郡、十和田市、三沢市の11市町村がエリアで、青森県の4分の1ほどの広さです。エリアには奥入瀬川や小川原湖などの親水的観光資源もたくさんあるため、「街道」だけでなく「海道」による活動もしています。

渋谷 浩一 昨年「とうほく街道交流会」の設立呼びかけ人として会議に参加しましたら、会議で提唱された「菅江真澄」の存在が全くわからないありさまでした。交流会議に加わって勉強しよう、福島でも勉強する会をつくろうと、「ふくしま県街道交流会」をたちあげ、古街道の探訪会

などを行っています。また、街道仲間と「羽州街道交流会」をつくり、新たな交流を始めました。

佐々木美知子 国道101号(旧大間越街道)の道の駅に産直施設が出来た時、生産者たちは必死でした。初めての接客で思いが伝わらず誤解が生じたりもしましたが、苦勞の甲斐があつて県内外からのお客さまとの交流活動をしています。そこから得た自信と誇りが、今後の活動の力になってくれることでしょう。

折田 街道を地域づくり、街づくりにどのように活かすかお話してください。堀川 歴史探訪などの活動を通して感じるのは、それぞれの団体が連携してやっ

ていかなければ、街づくりにはつながっていかないということでした。点から線、線から面になる交流のつなぎ役になれればと考えています。田中 奥州街道の探訪会や、歴史の里を訪ね歩くモデルコースを設けるなど、歴史にふれあう催しをしています。大事な

渋谷 交流を広げるため七ヶ宿仁井宿、
 檜下宿の三宿連携交流の活動に参加さ
 せてもらえるようお願いしているところ
 です。また、街道を活かした町づくりの
 社会実験「奥州・羽州街道桑折茶屋」を1
 カ月間行い、大勢の方が実験イベントに
 参加して相当大きな効果がありました。
 堀川 街づくりを進めておられる地域を
 たずね、街づくり、地域づくりをされてい
 る方とお話しすると、官と民の活動の成
 果が横につながっていくかどうか活動
 のポイントのようです。
 佐々木 スローフードが盛んな現在、「食
 の原点を探す旅」の一環として、街道を活
 用すればどうか、と考えます。
 渋谷 地域連携のためには、足元を見る
 とともに、外を見ることも重要です。山形、
 秋田・青森の街道探訪をして、そこで得た
 ことを桑折町の取り組みに活かしている
 ところです。
 会場から（辻兵吉秋田商工会議所名誉会
 頭）
 八森町と峰浜村の海岸沿いは、絶景の
 夕陽が見られ、世界自然遺産の白神山
 の入り口でもあります。行政と民間が力
 をあわせて全国へアピールすべきです。
 佐々木 おっしゃるとおり、海岸などの
 景観のすばらしさは広く知られていると
 はいえませんが、着実なアピール活動を
 つづけていきたいと思えます。
 田中 そこに住んでいる人が地元歴史
 を知らないという問題があります。たと
 えば菅江真澄の足跡を訪れた観光客に案
 内や説明などができないため、観光振興
 のネックになっているということも生じ
 ています。小学生から学習する体制をつ
 くることも必要です。
 渋谷 いままで全くつきあいのなかった

三宿の方々との交流をはじめ、七ヶ宿町
 や高崙町の方々など一年間でいっきよに
 交流が広がりました。
 折田 交流連携の活動の成果がたくさん
 報告されました。もつと交流連携が広がる
 ことを念じながら終わりにします。ありが
 とございました。

第3会場

「街道と産業」

宮原 育子 「街道と産業」という大きさ
 難しいテーマですが、みなさんの普段の活動
 から感じることをお話しください。

若杉 清 一人に会ったとき「私はいま、羽
 州街道沿いに住んでいます」と言うと、「国
 道13号沿いに住んでいます」と言う
 より、雰囲気いいですよ。

菅江真澄と聞くと、イコール街道のイ
 メージがわき、真澄をつまみ街道を、いか
 にすれば観光や特産品開発などの産業化
 につながるかなとできるかをしきりに考
 えています。

矢野 光夫 私が関わっている六十里越
 街道は、出羽三山の信仰の道であり関東
 以北から大勢のお客さんが訪れたことも
 あって、かつては中央文化と接触する道
 でもありました。

また、物流の道でもあり、山形県に寄与
 した経済効果ははかりしれませんでした。
 その歴史街道を活用するために、失われ
 た街道の数の刈り払いをして、地元旅館

等が主催する街道を歩く宿泊型イベント
 に取り組んでいます。
 渡部 雅俊 1878年にイギリスの女
 性旅行家イザベラ・バードが旅した下野
 街道(栃木と会津をつなぐ街道)のコース
 で、3日間かけたウォーキング大会を開
 催しました。長年、バードを何かに活用で
 きないかと考えていたのですが、このイ
 ベントを行うことで観光資源を発見した
 ような気持ちです。
 バードのイベントを開催するにあたつ
 て当初、地域の観光協会、商工会などの
 接点はまったくなかったのですが、地域
 を元気づけるには地域の方々と一緒にな
 って活動することが不可欠と考えて行動
 しました。結果的にたいへんな盛り上が
 りとなり、成功したと確信しています。
 矢野 私どもは六十里越街道を歴史的な
 文化遺産として、長く活用しながら保存す
 ることが大事と考えて活動しています。し
 か、あくまでも活動の主体は地元の方々で、
 少し離れた天童市などに住む私たちの活
 動は、あくまでも後方支援と考えています。



●コーディネーター
宮原 育子 (宮城県)
宮城大学薬学部薬理学部助教授



●パネリスト
若杉 清一 (秋田県)
秋田ふるさと村代表取締役専務



●パネリスト
矢野 光夫 (山形県)
山形県歴史の道「六十里越街道」を
記録する会代表



●パネリスト
渡部 雅俊 (栃木県)
野岩(やがん)鉄道常務取締役総務部長

若杉 少子高齢化で東北地方の定住人
 口は減少の一途ですが、必ずしも都市部
 にたよらなければ仕事ができないという
 状況ではないと思えます。
 むしろ古街道やおもむきのある道を使
 う視点を持つことは、違う価値を生み出
 すチャンスだと思っています。ただ、一方
 で新しい何かを付け加える工夫がなけれ
 ば、魅力アップにはつながらないでしょう。
 矢野 東京や仙台から30人ほどが六十里

越街道などの探訪に訪れ、宿泊すると1
 00万円ほどが地域にもたらされます。
 それに2、3回あるだけで、地域にとつて
 はたいへんな経済効果です。
 そのためには、地域住民が先祖の培つ
 た文化や身の回りにあるものを利用して、
 お客さんを呼ぶアイディアや活動が大事
 になります。いしえの道が営業になる
 ことを学んだばかりです。
 宮原 地域を訪れる人を増やす方策はど
 んなことが考えられますか。
 矢野 江戸時代にくらべると宿坊(参拜
 客のための旅館に泊まる人数は少なくな
 りましたが、それは当然です。昔は冬期間
 に北関東や北陸一円などの講(参拝する
 ために組織する団体)に出羽三山のお札を
 持つて回り、お参りに来てくださると營
 業活動をしていました。江戸時代と同じ
 ことはできませんが、六十里越街道は出
 羽三山の自然や歴史の景観の魅力のアピ
 ールすれば、お客さんはきつと増えます。
 渡部 鉄道の大きな目的は、魅力ある地
 域にお客様を運ぶことです。魅力ある地
 域や輝くものがあれば、多くのお客さん
 を運ぶことになり、地域振興につながり
 ます。逆に言いますと鉄道の繁栄は、いか
 に沿線に魅力のある地域があるかにかか
 ります。その輝きをつくり出すことが重
 要なことになります。
 宮原 それぞれのお立場で、道の役割をど
 のように考えられているか十分にお話し
 ください。どうもありがとうございました。